

## 令和5年度ひろしま自然保育推進事業 活動報告書

令和 6年 4月 30日

団体所在地 広島市安佐南区大塚東  
1-7-1

団体の名称 森のようちえん まめとっこ  
職・氏名 代表 石井千穂

### 1 活動報告

#### 【4月～6月】(春季)

(活動内容)・箇条書きで実施した内容を羅列

- 水辺の生き物探し
- 草花のたたき染めでハンカチ作り
- 森の清掃活動
- 野イチゴ・サクランボ摘み
- 枝と葉っぱでおもちや作り
- 田植え

#### 【7月～9月】(夏季)

(活動内容)・箇条書きで実施した内容を羅列

- 沢登りと水晶探し
- 竹の伐採と流しそうめん作り
- ジャガイモやサツマイモなどの収穫、調理
- 細竹でティピィ作り
- 稲刈り
- 自然観察員を招いて昆虫観察

#### 【10月～12月】(秋季)

(活動内容)・箇条書きで実施した内容を羅列

- 木の実や草花を用いておもちや作り、ファミリーイベントでお店屋さんごっこ
- 草木染め(ヒノキ、モミジ、マリーゴールド、クサギ)
- 秋野菜の収穫、焼芋
- みつろうキャンドル作り
- 森の探検、地獄の滑り台発見
- 年長登山(3回)

#### 【1月～3月】(冬季)

(活動内容)・箇条書きで実施した内容を羅列

- 餅つき、雑煮作り
- 味噌作り
- 冬野菜の収穫と調理
- 落ち葉集めと落ち葉のお布団遊び
- 野草の採取と天ぷら作り
- 落とし穴と足湯作り

## 活動報告（詳細）

1シーズンにつき最も印象的だった活動のエピソード1つご記入してください。

エピソードは、活動プロセス、保育者の関わり、子どもの育ちの見取りを端的にお願いします。

写真は基本1枚です。

### 【4月～6月】

(写真)



#### (エピソード記述) 【サクランボ摘み】

赤黒く食べ頃になった桜の実を採ろうと、年長児を中心に子ども達が木に手を伸ばす。背の高い男児はより高い所でより沢山の実を採ることを楽しみ、採った実を友だちにも分け与えていた。もらう側だった子どもも、そのうち年長児のやり方を見ながら工夫し始め、自分の手で収穫するようになった。サクランボを採りたい欲求が、それぞれ力量の異なる子ども達の「少し難しいこと」に挑戦する力となった。口の周りや洋服を真っ赤にして甘い味を堪能した後は、ビニール袋の中で水と実を混ぜジュースを作ったり、画用紙に実で絵を描いたりして遊んだ。真っ赤な色が、時間がたつと画用紙の上で青色に変わることも発見した。サクランボの木の下で、五感をたっぷりと使って遊び込んだ一日だった。

### 【7月～9月】

(写真)



#### (エピソード記述) 【昆虫観察】

ふくろう先生こと、自然観察員の上田康二さんにお越しいただいた。普段から虫が好きなお子も興味のない子もいたが、虫の豆知識を聞いた子どもたちは、一気に親しみを持ち始めた。元々虫が好きなお子もは、名前や生態を覚えて違いが見分けられるようになった。虫の動くスピードに追い付かず、なかなか捕まえられる年中児に年長児が分けてあげようとしたが、「自分で採りたい」と断り、根気強く追いかけて続けた。ふくろう先生に見せると、喜びを共有してもらえ、達成感を感じていた。保育者もアンテナを立てているうちに産卵中のオオカマキリを見つけ、みんなで観察した。いつもただそこにいた虫が、これをきっかけにかけがえのない大切な存在となった。

## 【10月～12月】

(写真)



### (エピソード記述) 【地獄の滑り台】

登山道の尾根を散歩中、傾斜が大きく広い斜面を見つけた。下見と整備の後、みんなで下りてみた。気を抜くと谷底まで一気に下まで滑ってしまう斜面を、所どころ生えている木を目標にしながら、思いきって滑り下りる。帰り道はなんとか踏みとどまりつつ、登っては滑り、を繰り返して元いた場所まで戻る。普段味わうことのできないスリリングな挑戦を、子ども達は声をあげて長い時間楽しんだ。普段から体を使って遊んでいるため、それぞれの子が自分の力量をよくわかっている。体の声を聴き、「ここまで」と各自で判断するのだ。「この場所に名前を付けよう」と提案すると、男児の一人が「命がけ！地獄の滑り台」と名づけた。偶然見つけたこの場所はみんなのお気に入りの遊び場となった。

## 【1月～3月】

(写真)



### (エピソード記述) 【落とし穴作り】

落とし穴作りは一日にしてならず。大人に作り方を教えてもらったばかりの頃、穴はとても小さかった。「こっちに面白いものがあるよ」と人を呼び込んでは、「落とし穴でしょ？」と怪しまれる。次第により大きく深く掘り、より魅力的に人を呼び込もうと工夫を重ねた。数か月にわたり、一つの遊びを進化させていく様は、まさに課題解決だった。年中児Yは、踏んだ時にしっかり落ちるよう、木の枝や皮を緻密に組み合わせて穴の入口をふんわりとふさぎ、丁寧に土をかけた。穴は年少児HTが時々入り、体が隠れる深さであることを確認した。年中児HAが、落とすターゲットの年長さん達がもうすぐ戻ってくるからと、手伝いを急いで申し出る。大人は怪我がないように万全に見守った。いたずら心は遊ぶ力＝学ぶ力のエネルギーとなったようだ。

## 2 その他（自然体験活動の実施における今年度のプロセス）※記入必須

- 職員の資質向上について
  - ・自然保育認証団体安全管理研修（救急セットの作り方・事故ヒヤリハット検証）にスタッフが参加
  - ・赤十字幼児安全法支援員講習を代表が受講
  - ・赤十字救急講習をスタッフ、保護者が受講（2回実施）
  - ・自然保育体験研修（ロープワーク、竹遊び）をスタッフが受講
  - ・園舎・活動場所付近の AED 設置状況の調査をスタッフ・保護者が実施
  - ・森のようちえん全国ネットワーク主催の中堅保育者ゼミナールにスタッフが参加
  - ・智頭の森のようちえん まるとんぼうの保育視察にスタッフが参加
  - ・森のようちえん全国フォーラム in 千葉にスタッフ・保護者が参加
  - ・森のようちえん地域ネットワーク勉強会に代表が参加
- 地域との関わりについて
  - ・近隣地区の農家を訪れ、田植え・稲刈り体験、同地区にて冬に餅つき・とんどに参加
  - ・有機農業従事者から柿を分けていただき、干し柿作り
  - ・近隣地区のお年寄りに敬老の日の絵手紙をプレゼント、お返しにお手玉やお菓子を頂く
- 保護者との関わりについて
  - ・スタッフと保護者による「大人のワークショップ」を数度開催、森での見守り、野外料理、ツル籠編みなどを通して研修や交流を行った。
  - ・父親保育参加日を3回実施した。
  - ・園舎周りの草刈りや落ち葉掃除を定期的に行った。
  - ・年長保護者が主導して園庭を整備し、野菜や花を育てるレイズドベッド（畑）が設置された。
  - ・広島市総合防災センターの市民研修に保護者・スタッフで参加した。
- その他
  - ・園児（年少～年長）と未就園親子組の合同活動を頻繁に開催し、より幅広い年齢層の子ども同士が森で関わる機会を作った。子ども同士はお互いの存在が刺激となり、親子組の保護者は森で力強く育つ年上の子ども達の姿や、ようちえんの保育方針を間近で見る機会となった。
  - ・1年に一度のファミリーイベントを、園外の方にも声をかけ地域のイベントとして開催した。スタッフ、保護者、園児それぞれが自然物を用いたお店を開き、園独自の通貨を作成してお店屋さんごっこを実施した。竹を用いたティピィ作りや竹灯り作り、木の実のリースやおもちゃ作り、数珠玉アクセサリー作りなど、自然の恵みを地域の方々と共有する機会となった。

\*より詳しく活動をアピールしたい施設は、ホームページや SNS の URL をご記入ください。

U R L	<ul style="list-style-type: none"><li>・ホームページ、各種 SNS へのリンク集</li></ul> <p><a href="https://lit.link/mametokko">https://lit.link/mametokko</a></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ブログ</li></ul> <p><a href="https://ameblo.jp/mametokko">https://ameblo.jp/mametokko</a></p>
-------	--